

兵庫県生物学会第41回総会報告

日時 昭和62年5月30日(土)・31日(日)
場所 兵庫県立三原高等学校 人形会館
(第2日) 淡路農業技術センター
淡路ファームパーク

日程

(第1日)

会長あいさつ 室井 綽

ただいまから第41回兵庫県生物学会総会を開きます。開会にあたり、会場校の校長をはじめ各方面の先生方大変お世話になりましたことを、会員一同に代わりまして厚くお礼申し上げます。

昨年来いろいろなことがございましたが、兵庫生物9巻3号に書かせてもらいましたのでご覧願います。この度、40周年を記念いたしまして、堀先生が「神戸の化石」を出版されました。そして、この収益の一切を生物学会に寄付していただくことになりました。来月下旬頃には印刷される予定になっております。会員の皆様方への宣伝また購入方よろしくご協力のほどお願い申し上げます。その他の刊行物につきましては会誌をご覧願います。

悲しいこともございました。今日ここに中西先生、稲田先生の奥様において願っております。お二人の先生方には、絶えず現場に立ってご指導願っておりましたが、中西先生は9月26日、稲田先生は6月4日に亡くなられました。私達にとりまして大変残念なことでございます。両先生のご冥福をお祈りいたしまして黙とうを捧げたいと思います。黙とう願います。

簡単でございますが、あいさつを終わります。

会場校長あいさつ

県立三原高等学校教頭 金一 啓

本日、校長が公務出張のため私教頭が代わりまして、皆様の歓迎のごあいさつを申し上げます。皆様お忙しい中早朝より遠路お越し下さりましてありがとうございます。生物学会総会も41回目を迎えられまして、今後ますます発展されますことと思われ、本当におめでたいことと存じます。

さて、淡路島は今頃が最も季節のいい時でございます。淡路といえば鳴門の桜ダイが有名ですが、現在では福良湾で養殖をしているだけで、昔のような面影は見られなくなりました。しかし、海の幸山の幸がいっぱいございます。

昨今、大鳴門橋の完成で島は俗化してまいりました。それに伴いまして、花とオレンジの島といわれたロマン

チックな風景も最近では影をひそめ、自然破壊が進んでまいりました。私共が小学生の頃は、よく小川のふちを歩いたり泳いだりしましたが、今の淡路島の川は非常に汚染されてまいりました。そういった時期にあたりまして、当地で生物学会総会が開かれたことは大変意義深いことでございます。どうか2日間充実した楽しい時を過ごしていただきたいと思います。不行き届きの点もでございますが、あしからずご容赦下さいまして、どうぞゆっくりとお過ごし下さい。

簡単でございますが、歓迎のことばとさせていただきます。

兵庫県生物学会研究奨励金授与

- ・三宅隆三氏 ヒメタイコウチの分布と生態並びに石材中の化石の研究
- ・横山雅一氏 帰化植物の研究
- ・栃本武良氏 オオサンショウウオの保護のための生態研究

感謝状贈呈

・故中西哲 殿

あなたは本学会の発展に熱意を注がれ、学究活動を通して多くの研究者の師表として尊敬されつづけられました。今日、本学会が社会的に高い評価を受けていますのもあなたのご功績によるものであります。会員の総意をこめて感謝の意を表します。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

昭和62年5月30日

兵庫県生物学会会長

農学博士 室井 綽

・故稲田又男 殿

あなたは本学会の常任理事として永年にわたりご教示を賜り、また、とくにシダ植物の研究者として後進のご指導に熱意を注がれました。そのご功績を偲び、会員の総意をこめて感謝の意を表します。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

昭和62年5月30日

兵庫県生物学会会長

農学博士 室井 綽

・梶田耕造 殿

あなたは本学会の常任理事として永年にわたり生物教育のご指導に熱意を注がれ、本学会の発展に寄与されました。そのご功績を讃え、会員の総意をこめて感

謝の意を表します。

昭和62年 5月30日

兵庫県生物学会会長

農学博士 室井 綽

議事

1. 昭和61年度 事業・会務報告

- (1) 理事会 61・4・26 県立明石高校
 - (2) 会計監査委員会 4・26 ”
 - (3) 第40回総会 5・23～24 明石市立勤労福祉会館
 - (4) 生物写真展 5・23～25 ” ”
 - (5) 夏期研修会
 - a 8・4～5 県立水産試験場・栽培漁業センター
他
 - b 8・18～20 神戸大学理学部附属臨海実験所
 - (6) 第2回海外研修旅行
8・23～28 (29) ハワイ
 - (7) 理事会 9・20 親鸞会館
 - (8) 記念公開講座 10・25 明石市立勤労福祉会館
 - (9) 日本生物教育会近畿ブロック支部長会
62・1・31 大阪・福寿飯店
 - (10) 常任理事会 3・7～8 県立三原高校
 - (11) 出版物報告
 - ア 兵庫生物 (Vol. 9 No. 3)
 - イ 高校生物ハンドブック (第23版)
 - ウ 竹と共に七十年 室井綽博士物語 (記念出版)
 - エ 神戸層群産植物化石集 堀治三郎著 (記念出版)
 - オ THE HORTICULTURE BAMBOOS SPECIES IN JAPAN 岡村はた著
 - カ 竹を知る本 室井 綽著
- ### 2. 昭和61年度 会計決算報告・監査報告 (p.256参照)
- ### 3. 昭和62年度 企画案審議

- (1) 理事会
- (2) 会計監査委員会
- (3) 第41回総会
- (4) 夏期研修会
- (5) 第14回公開講座 宮本忠之
 (“鳥” (神戸) 後日案内)
- (6) 常任理事会 3・5
- (7) 理事会 4・23 県立明石高校
- (8) 会計監査委員会 4・23
- (9) 刊行物 (個人名発行物の連絡をお願いします)
 - ア 兵庫生物 近藤昭一郎
 - イ 高校生物ハンドブック 山田 隆
 - ウ 淡路の自然 矢尾田 勝
 - エ 但馬の自然
 - オ 兵庫県植物誌 橋本 光政

(10) 研究奨励賞 (基金)

森為三・三木順一・紅谷進二・岡村はた・各10万円
竹と共に七十年 室井綽博士物語 出版委 100万円
神戸層群産植物化石集 堀治三郎 ?万円

4. 昭和62年度 予算案審議 (p.257参照)

会員研究発表

- ・中西敏昭・長谷川太一 環境指標としてのタンポポの分布の多変量統計解析について
- ・三宅隆三 都市の化石さがしー神戸・大阪を歩くー
- ・横山雅一 神戸の帰化植物
- ・横山了爾 トンボタケについて

講演

身近かな生物の小さな観察

南光 重毅

ここに「身近かな生物の小さな観察」と出しましたが、特別に決まっているわけではありません。あえていうならば、この小さな生物の次にもう一つ“小さな”を入れて今から話をさせていただきます。学問的に何らまとまったものでもありませんが、強いというならば、私の自然を見つめていく中で感激したこと、心を打たれたことを中心に、その前後をカメラで追っかけていったようなものですから、気楽な気持ちで先生方御自身が今から野外に出かけて行かれて、何かを探しているようなつもりでスライドを見ていただければ幸いです。学問的裏付けは先生方の方でつけていただいて、写真を通して観察していただけたらと思います。先ほど紹介していただいた本の中にも限られたスペースで説明を入れていますが、十分説明しきれないところがあります。従って、説明なしでも観察して理解していただけるようシリーズとして写真を撮影しました。今、次の企画を考えて取材中ですが、その写真も含めて600枚ぐらいスライドを筋書きにそって並べてみました。

(以下、スライドを見ながらの説明)

まず初めに、南淡で見つかりましたオニバスを観察してみます。百間堀という農業水路で見つかりました。オニバスの1株は、このホールの中全体に一株くらいになるほど大きいのですが、1年草でして、今頃芽が出て秋には枯れてしまいます。1枚の葉の直径は約2mあります。表にも裏にもとげがいっぱい生えています。1株の花茎は数えてみると、30～50本くらいあります。古代紫の花は、しかし惜しいことに完全には開かないのです。オニバスには閉鎖花が多く、開花しないままで結実することが多くあります。果実が熟しますと、栗のイガのような外側が自然につぶれて、種子がポカポカと浮び流さ

れていきます。時間がたつと種子は水底に沈んでいきます。種子にはヘソのような部分があり、潜水艦のハッチを開けるようにしてここから発芽しはじめます。そして、最初の1本はツノのような葉を出してきます。これが伸び切ってから次の葉が出てきます。第4葉が浮き葉となります。6月中旬にこのような状態がみられますが、百間堀では水路のじゃまになるので、ファームパークの調整池に種子を移して育てています。花が咲き種子ができましたので、おそらく根づくものと思います。

次に、オニバスに似ているヒツジグサを見てみます。何時頃にヒツジグサは花を開くのでしょうか。10時30分から観察を始めました。まだ開いていません。12時、やっとつぼみの先端が割れ始めました。(以下10分おきに撮影したスライドで観察) (中略)

次は、カタクリを見てみます。これにはいくつかの感激させられる場面が出てきます。真冬でもこのように雪の下で春の息吹がはっきりと見てとれます。そして春温かくなると一斉に葉を出し花を咲かせるのです。

(中略) これはカタクリのはじけた果実と種子です。こういうふうにはじけた種子が地上から姿を消すとき、地下を掘ってみると、カタクリの鱗茎があります。あの鱗茎が6~7cmくらいありますから、それからして深さがどれほどの所かわかると思います。この鱗茎は次第に深い所にもぐっていくのです。どうやってもぐるのかを調べてみることにしました。(中略) カタクリは花や葉が地上から姿を消した後はしばらくは休眠するといいますが、そうではないのです。そのまま春への準備を続けています。真冬の頃鱗茎を切ってみると、花茎ができていたのがわかります。春に花を咲かせると同時に養分を使い尽すから、その時に周囲の鱗茎の部分なくなって、鱗茎の部分だけがあのようにはじけたまま残って、下方へ新しい鱗茎が伸びていくのです。カタクリは絶えず伸び続けているのです。この様子を調べるために、ガラスの水槽の中で育ててみました。花の終りの頃には下へも茎が伸びているのがわかります。植物は結構自分の意志を通して生活しているようです。(中略)

次にツユクサにもおもしろいものがあります。白花のものが時々見つかります。白と青との中間のものがどうやってできるか。その遺伝的な説明は専門家にまかせることにしましょう。紫花、それに青色が様々に混じっていく変異が見られます。また、これは滋賀県の方で栽培しているオオボウシバナです。背丈ぐらいあり大きな花が咲きます。朝、花をつんで友禅染の下絵にこれを使うそうです。青花紙といい、この花の色素は水に非常に溶けやすいので、布地に書いても水につけるとサッとぬけてしまうのです。これがツユクサとの比較です。ツユクサの花びらは上に2枚と下に、白くとがったものが1枚

あります。ところが下の花びらは苞のように見えるのです。あれが花びらだと子供たちに教えるのは非常に難しいわけです。そこで、いろいろ見ているうちに、下の花びらがふつうの形のように大きくなった変異種が見つかりました。オオボウシバナにもみられます。(中略)

次はヒシモドキです。この資料は西播の池で採集してきたものです。次第に減りつつあるので写真資料を残そうと思って、一昨年の夏から始めました。美しいピンクの花を咲かせます。3日ほどでおれ、倒れて水面下に没してしまいます。これが実をつけるかというところではなく閉鎖花が結実します。(後略)

総会出席者名簿(第1日目)

東 克彦(市神戸商高)	橋本 光政(姫路西高)
猪井 隆(舞子高)	藤尾 妙子(八千種小)
上中 一雄(兵庫高)	船曳美佐紀(伊丹市高)
東 良雄(こやの里養)	岩田 薫(播磨南高)
川上 清統(須磨東高)	富川 哲夫(夙川学院)
阿蘇 達郎(加古川西高)	三住 昭夫(津名高)
古河崎正昭(三木東高)	三宅 隆三(西宮東高)
清水 淳(三原高)	養内 捷之(県農高)
清水 正昭(淡路農業高)	村上 義徳(親和)
渋野 竜二(市神戸西高)	村田 熙(三原高)
高田 俊(市葺合高)	室井 綽(姫路学院)
谷本 幸照(柳学園)	矢尾田 勝(洲本高)
槌賀 正夫	横山 了爾(龍野高)
当津 隆(姫路女短)	阪口 正樹(西宮東高)
中西 敏昭(姫路東高)	建 武(芦屋高)
南光 重毅	上岡 雅和(明石高)
丹羽 啓裕(洲本高)	林 和子(伊丹西高)
長谷川太一(県伊丹高)	岡田 清隆(柳学園)
榎谷 佳子(県神戸商高)	金一 肇(三原高)
横山 雅一(東灘郵便局)	岡村 はた(聖和大)
辻本 達茂(県神戸商高)	

第2日

淡路農業技術センター・淡路ファームパーク見学会報告

41回生物学会総会2日目の行事は、淡路農業技術センターと淡路ファームパークの見学会を実施した。前日よりの宿泊組9名、当日参加者14名の小人数の会であったが、和気あいあいの楽しい見学会であった。

☆淡路農業技術センターは、明治42年に津名郡千草村に乳牛の改良と酪農経営の助長を図るために設置されたのに始まり、昭和56年に農業試験場と畜産試験場を統合する形で当地に移転開設された研究施設である。会議室に集合し、武田主任研究員、小山主任研究員より当センターの主要研究課題の説明を受けた。

(農業部研究課題)

- 淡路特産タマネギの優良品種選定と耐病育種
- 特産野菜(ハクサイ)の生理障害(Ca欠乏)対策
- 淡路特産ビワの整枝法と寒害防止技術改良
- カーネーションの作型改善
- 温室のコンピューター制御の研究
- ニホンスイセンの促成栽培

(畜産部研究課題)

- 乳用牛改良事業、飼育コストダウンの研究
- 人工授精事業
- 乳牛の受精卵移植
- コンプリートフィード調整利用技術の確立
- 畜産物の高品質化など

説明後、場内見学、受精卵移植で生まれた顔付きの良く似た乳牛、省力化の進んだ牛舎を廻り、果樹園、温室内のカーネーション、サイトピー、ホワイトレースフラワーを見てファームパークへ。

☆淡路ファームパークは、昭和60年に兵庫県フラワーセンター(加西市)の分園として発足した施設である。総面積170,000㎡の園内に大温室(1684㎡)、ロックガーデン(4700㎡)コアラ舎が主な施設として配置されている。正面ゲードをくぐり、久山主任研究員の案内で大温室に入る。ブラジル区のアナナスの林をくぐり、熱帯果樹コーナーでは、バナナの実がなる。ラン・コーナーでは、ツルラン、エビネが花を開き、満開のハイビスカス・コーナー、中国区のツバキゾーン、オーストラリア区と過ぎる。土中15℃に調整された冷房室で、ワシントン、ハバロフスク地方の寒冷地植物を見て室外へ出る。ロックガーデンは、ユウカリ林の前の傾斜地を利用して作られ、南アメリカ、アフリカ、ソ連、オセアニア、アジア、ヨーロッパ、北アメリカ、中国、日本の各地より集められた山地植物の中を散策する。最後に、本年5月に一般公開を始めた、「健ちゃん、康ちゃん」の二頭のコアラ

と会見、見学会を終える。日曜日とあって園内は子供で混雑、帰りのフェリーの待ち時間を心配して早目の解散となったが、本年度の丹有地区での再開を約して見学会を終了した。

(清水 記)

見学会参加者(62.5.31)

養内 捷之(県農高)	橋本 光政(姫路西高)
村上 義徳(親和)	阿蘇 達郎(加古西高)
東 良雄(こやの里養)	上中 一雄(兵庫高)
船曳美佐紀(市伊丹定)	川上 清統(須磨東高)
横山 了爾(龍野高)	古河崎正昭(三木東高)
室井 緯(姫路女短)	清水 淳(三原高)
当津 隆(姫路女短)	谷本 幸照(柳学園)
槌賀 正夫(槌賀研究室)	村田 熙(三原高)
丹羽 啓裕(洲本高)	矢尾田 勝(洲本高)
岡田 清隆(柳学園)	金一 肇(三原高)
山本 修一	内波 秀一(滝川第二)
三住 昭夫(津名高)	

第42回 総会のご案内

と き 昭和63年5月
と ころ 丹 有 支 部

上記の予定になっておりますので、研究発表等ご希望の方はあらかじめ、ご準備ください。